

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：国連の化学兵器使用疑惑調査団のシリア入り

8月18日、国連のシリアでの化学兵器使用疑惑に関する調査団（The United Nations Mission to Investigate Allegations of the Use of Chemical Weapons in the Syrian Arab Republic）が、ダマスカスに到着した。メンバーは20人で構成され、19日から調査を開始する予定である。滞在期間は、2週間で延長もありうるとされた。報道では、調査団は、3カ所（アレッポ近郊のKhan al-Assal と他の2カ所）で調査を行う。

同調査団は、シリア政府の要請で2013年3月に組織された。しかし、国連はシリア国内で広い地域の調査を求めていたが、シリア政府は特定の場所での調査を主張したことで、調査団のシリア訪問が遅れていた。7月24日、調査団のセルストローム団長（Ake Sellstrom、スウェーデン人）がダマスカスを訪問し、シリア側と協議を行い、8月14日にはシリアと国連は調査団の安全対策などで公式に合意した。

シリア政府は、化学兵器を保有しているかどうかを明らかにしていない。政府関係者は、仮定の話として、もし保有していたとしても国民には使用しないと発言している。他方、欧米諸国、イスラエルは、シリアが化学兵器を保有していると見ており、内戦の悪化にともない、政府軍が反体制派に対して化学兵器を使用する可能性、あるいは混乱の中で化学兵器がテロ組織に流れることを懸念してきた。こうした一般的な懸念はあったが、シリア軍が実際に化学兵器を使用したとの疑惑が表明され始めたのは2012年の12月頃からである。2013年春以降、英国、仏国はシリア政府が化学兵器を使用したとする十分な疑惑があると主張した。米国は、シリア政府の化学兵器使用疑惑について慎重だったが、2013年4月下旬に、化学兵器使用の疑惑があるとの立場を表明していた。ロシアは、シリア政府の化学兵器使用疑惑については、疑惑の主張には根拠がないとしている。

米国は、シリアが化学兵器を使用した場合は、米国のレッドラインを超えたことを意味すると警告している。

## 評価

シリア内戦については、憶測や政治宣伝的な情報が多い。化学兵器についても、確たる情報はほとんどない。国連の調査がどの程度の規模になるかわからないが、国連の調査団が、数カ所でも疑惑のある現場を訪問し、その調査結果を発表すれば、限定的であるが信頼できる情報になる。

（中島主席研究員）